

# 経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2180号

2013年09月30日（月曜日）

## 《 shutdown and collapse ? 》

世界のマーケットを混乱させるであろう二つの大きな政治的“緊急事態”の中での週明けです。起きうるのは、1996年以来の米政府機能の一部停止とイタリアの連立政権の崩壊。週明けのオセアニア市場では既にドルとユーロが安くなり、円高が進行している。こうした状況の中で、世界の株式市場も少なくとも週明け早々は大荒れになる可能性が高い。

アメリカ政府の閉鎖（少なくとも当面は“一部”）が起きるとしたら、アメリカ東部時間の9月30日の深夜（日本時間の1日昼）から。具体的には、政府の各種サービス（例えばパスポートの発給）の停止、軍人を除く国家公務員への給与支払い停止など。非常に重要な業務（国家安全保障に関わるものなど）は継続されるが、その他の政府業務については、多くの国家公務員に対して自宅待機が命じられる。オバマ大統領のスタッフも三分の二は自宅待機になるという話もある。

これは、9月30日中に10月1日以降の予算措置が議会で整わない可能性が高い為だ。直近の情勢としては、米下院で多数を占める共和党が9月30日以降も政府をファンディングする法案に「オバマケアの一年間開始延期」を盛り込んだ。民主党が優勢な上院は既にストップギャップ法案を可決しているが、下院はこの一点で大きく違う内容の法案を可決。逆に上院がこの案に同意するように求めているが、上院で多数を占める民主党はこれを拒否しているし、オバマ大統領は自分の目玉政策に関するだけに下院案には「拒否権行使」を明言している。

下院の共和党は、「オバマケアの一年開始延期」を“妥協案”だとしている。それは「（オバマケアの）撤廃」を求めたものではなく、認めた上での「開始時期の一年延期」を求めたものだからという論理。しかし民主党には「予算を人質にとっての共和党のオバマ政権への揺さぶり」としか映らない。米共和党の今の政策は、あらゆる政府の膨張に反対するティーパーティー運動の支持を受けた強硬派が指導部を動かしているとも言われる。民主党としても安易な妥協は出来ない状況。

米上院は30日の夜遅くなってからしか議事に戻らない見通し。共和党も民主党も、「政府が一部でも四半世紀ぶりの政府の閉鎖に追い込まれたなら、それは相手の責任だ」と非難合戦を展開しており、既に米政府省庁は緊急事態に備えた準備を始めていると言われる。無論最後の最後に何らかの形で議会やホワイトハウスが政府閉鎖を避ける措置を講じる可能性はある。しかしそれはアジアの週明けの市場には間に合わない。

イタリアのレッタ連立政権崩壊の可能性は、言ってみれば「ベルルスコーニ政局」の一端。彼の率いる政党（People of Freedom 中道右派）は中道左派率いるレッタ連立政権の少数派パートナーで5人の閣僚を送っていた。離脱騒動は、表向きは「付加価値税を引き上げる」とのレッタ首相の政策に賛成できない、という理由。ベルルスコーニは今回それらの閣僚をすべて辞任させるという。しかし来月にはベルルスコーニを全ての公職（議員を含む）から追放するという裁判所の命令にも関連している。彼の政党は「ベルルスコーニが公職追放になれば連立から離脱する」との方針を明らかにしている。

連立崩壊となれば、レッタ首相への信任投票実施が行われ、その後は連立の組み替え、新たに選挙などの選択肢がある。しかしそもそも今年の春に1カ月以上を要した「連立」の組み直しをすれば、イタリアの政局は著しく不安定になる。今年春に続いてまたまたイタリアの政治が経済危機の中で空白になるからだ。国債利回りの大幅上昇や格付け機関による格引き下げなどが予想される。マーケットもイタリアの危機には慣れているとはいえず、ヨーロッパとユーロにとっては懸念材料だ。

もっともイタリアの政治は複雑で、5人の閣僚は正式にはレッタ首相に辞表を提出していないとも伝えられる。ベルルスコーニも何を優先するかと言えば「自分の延命」だろう。こちらにも「最後の最後になっての展開」はあり得る。アメリカ政府のファンディングを巡る攻防も既視感のある事態だが、少なくとも週明けのアジアの金融市場はやや荒れる可能性が高い。

### 《 Abe and sales tax 》

QE3 の縮小を巡る発言も続いていて、マーケットはかつてほどではないが気にしているようだ。シカゴ連邦準備銀行のエバンズ総裁は先週末、縮小の開始時期について「10月か12月の会合でも起こりうる。ただ、来年1月の会合もあり得る」と一見当たり前のことを述べたと伝えられる。しかし筆者が注目したのは、「来年の1月までしか言及しなかった」という事実である。それは「それ以降になることはない」と言っているように筆者には思える。

この発言は、ノルウェーのオスロで記者団に語ったものとされる。同総裁は「現在の米経済情勢については強い自信が持てない」とバーナンキ議長と同じ考えを示し、そのうえで「さらに自信を得るためには、経済が幅広く改善している証拠をもっと見る必要があるとも述べ、「すこし時間がかかっても驚かない」と語ったとされる。また FOMC の副議長で投票権を持つニューヨーク連銀のダドリー総裁も同じ週末に、QE3 の縮小開始を決める条件として「労働市場の改善が今後も続くことに確信を強めるような経済データを見たい」と述べたと伝えられる。

ということは、FRB の内部の人たちも「（縮小着手が遅れても）数ヶ月。来年の春以降になることはない」と考えているということだろう。これまでの経緯からして FRB の内部の人間もそう考えているのは理解できるが、筆者は一回「見送った」以上は、縮小着手が来年の1月以降になることもあり得ると見ている。彼等自身も「すこし時間がかかっても驚かない」と述べているが、

今のアメリカの景気は完全にまだら模様。容易に「確信が持てる状態」（バーナンキ）のような状況にはなりそうもないからだ。

-----

今週の主な予定は以下の通り。

09月30日（月曜日）	8月鉱工業生産 8月商業販売統計 8月自動車生産 8月住宅着工 ユーロ圏9月消費者物価 米9月シカゴ購買部協会景気指数
10月01日（火曜日）	8月失業率・有効求人倍率 8月家計調査 9月日銀短観 中国9月製造業 PMI 指数 オーストラリア8月小売売上高 8月毎月勤労統計 9月新車・軽自動車販売 9月大手百貨店売上高速報 ユーロ圏8月失業率 米9月ISM製造業景況感指数 米8月建設支出 米9月新車販売
10月02日（水曜日）	9月マネタリーベース 欧州中央銀行理事会 米9月ADP雇用リポート
10月03日（木曜日）	金融政策決定会合（～4） ユーロ圏8月小売売上高 米新規失業保険申請件数 米8月製造業受注 米9月ISM非製造業景況感指数
10月04日（金曜日）	金融政策決定会合の結果発表 黒田日銀総裁会見 米9月雇用統計 APEC 閣僚会議

今週は安倍首相による消費税に関する方針発表がある。10月01日の予定。既に法律で

は来年の春から上がるようになっているが、「その通りに実施するか」の判断が出る。安倍首相としては「議論を尽くした形」「統計をよく見ての判断」という形を取る。最終判断の材料になるのは、同日発表になる日本銀行短観。今の景況から見れば、安倍首相の判断を揺るがせるような数字にはならない良いものになると思われる。

米雇用統計は無論注目される。QE3 縮小か継続かの大きな判断材料となる。市場予想は非農業部門就業者数で17万5000人程度の増加を見ているが、これが20万人を越えるようだと年内のQE3縮小が俄然可能性高くなる。もっとも最近の傾向として、前の月の発表分の改定も重要だ。率については、予想外の低下が続いているが、今のところ7.4%という見方が強い。

なお今週は10月に入ると中国、香港など多くの儒教文化圏で連休が始まる

### 《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。秋も深まった二日間でしたが、2週も3連休が続いた後だけに「あれ今日の月曜日は仕事か」なんて思っている人も多いのではないのでしょうか。これが普通ですから、お間違えのないように。

大阪とはいろいろ縁があるので週末の堺市の市長選は注目していましたが、日曜午後8時の投票終了直後に「維新敗北、現職の竹山氏勝利」と出たのにはちょっとビックリしました。よっぽど出口調査で差が付いていたんでしょね。維新にとっては「一丁目一番地」で負けたようなもので、維新にとっても政治家としての橋下徹・大阪市長にとっても厳しい結果。結局「都構想のメリット」が最後まで分からなかったのが、堺市民の維新離れの意識に繋がったのだと思う。プライドの高い市民ですから、よほど都構想の功がなければ維新の論理は弱かった。橋下氏に対する反感もあったような気がする。

ところでこの週末には「そして父になる」を見ました。良い映画でした。子供の取り違えで二組の夫婦が出てくるので、「こういうシーンはあるだろうな」と想像できる場面が多い。その意味では展開そのものには意外性はあまりない。しかし淡々として淀みなく静かに展開する中で、この映画は深い涙を誘う。「子供の取り違え」は、言ってみればシチュエーション、入り口であって、実はメインテーマではない。福山雅治演じる大会社のエリート社員（野々宮）が、「子供取り違え」を切っ掛けに本当の意味の父親になるプロセスを描いている。

配役も良く出来ている。両方の夫妻の両親なども出てきて、日本の戦後の原風景もかい間見える。そして発展のプロセスも、そして人間関係も。リリー・フランキーと真木よう子が演じる電気屋夫婦がまた味がある。エリートではないが。気になったのは同じ誕生日の取り違え子供二人の大きさがかなり違うことくらい。

見ていて、「これはイタリアとかフランスなどのラテン系の人には共感を得られるかも知れない」と思いました。イタリア映画のような渋さがある。「人間の価値とは何か？」に関して。福山が演じる主人公は、俗的存在に見えるリリー・フランキーに人間としても父親と

しても全く負けている。そして最後は子供にも見透かされる。不必要なものをそぎ落とし、そして時に怒りという人間の自然な感情を含みながら進むのがよい。

既にハリウッドでのリメイクの契約が済んだとか。スティーブン・スピルバーグ監督が率いているドリームワークスと。ということは、アメリカでもヒットするかも知れない。

それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail [ycaster@gol.com](mailto:ycaster@gol.com))の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》